

命の尊さを伝える本（令和5年度）

4月のおすすめ本

○「ロバのシルベスターとまほうの小石」

ウィリアム・スタイグ／著

せたていじ／訳

評論社

おすすめコメント

とぼけた表情も楽しく、風景も美しい、親子で読んでほしい心温まる絵本です♡

（平塚市の図書館にあります。中央、北、西、南図書館）

○「くまさぶろう」

もりひさし／作

ユノセイイチ／絵

こぐま社

おすすめコメント

無口で優しい泥棒のおはなし。ユノさんの絵が相まってたまらなく優しい一冊です。小さなお子さんから多感な時期のお子さんにも是非オススメです！

（平塚市の図書館にあります。中央、西図書館）

5月のおすすめ本

○「逆ソクラテス」

伊坂 幸太郎／著

集英社

おすすめコメント

おとなの決め付けた言い分に、萎縮していないだろうか。「自分はそう思わない」この言葉を大事に持ち続けたい。

（平塚市の図書館にあります。中央、西図書館）

○「ライオンのおやつ」

小川 系／著

ポプラ社

おすすめコメント

若くして余命を宣告された主人公。島のホスピスでは毎週日曜日、入居者がリクエストできるおやつの時間がある。食べることで生きることを描き出す感動の物語。

（平塚市の図書館にあります。あおぞら号、中央、北、西、南図書館）

6月のおすすめ本

○「いのちの食べかた」

森 達也／著

理論社

おすすめコメント

命を知る…この視点を身近な「食」を入口に人間というもの、そして人間社会の抱える問題、個人のアイデンティティと思考の波に飲まれる！冊ではないでしょうか？

生きる為には「知る事」の大切さを、辛い時に視点を変えた世界の見え方を

(平塚市の図書館にあります。中央、南図書館)

○「ぼくにげちゃうよ」

マーガレット・ワイズ・ブラウン／作

クレメント・ハード／絵

岩田みみ／訳

おすすめコメント

どこにいても何をしていても我が子を愛する母の気持ちに心が温かくなります。うさぎのお母さんも人間のお母さんもみんな自分の子どもが大好き！

(平塚市の図書館にあります。あおぞら号、中央、北、西、南図書館)

7月のおすすめ本

○「リクエストは星の話」

岡田 淳／作・絵

偕成社

おすすめコメント

星にまつわる 4 つのストーリーで構成されていて、最後に全て繋がるファンタジー感覚で心が温まる作品です。

(平塚市の図書館にあります。中央、西図書館)

○「ちいさなヒッポ」

マーシャ・ブラウン／作・絵

内田 莉莎子／訳

おすすめコメント

かばのお母さんがちいさなヒッポに教える大切なこと。それは、忘れてしまっていたけど、悩める大人にこそ必要なことでした。

(平塚市の図書館にあります。中央、北、西、南図書館)

8月のおすすめ本

○「フェルムはまほうつかい」

スギヤマカナヨ／文・絵、畠山重篤／原作、長沼毅／監修
小学館

おすすめコメント

人間も動物も、すべての生きものは鉄(フェルム)がなくては生きていけません。「鉄のまほうつかい」が何億年も前から、この地球にかけ続けている「鉄のまほう」とは？
(平塚市の図書館にあります。中央、西、南図書館)

○「ぼく(闇は光の母 3)」

谷川俊太郎／作、合田里美／絵
岩崎書店

おすすめコメント

なにもほしくなくなって、なぜかここにいたくなくなってぼくはしんだ じぶんでしんだ。
死にたいと生きたいは裏表、編集者も死なないで欲しくて作った絵本です。絵も綺麗です。
(平塚市の図書館にあります。中央図書館)

9月のおすすめ本

○「タッチだいすき」

聞かせ屋。けいたろう／文、ひろかわさえこ／絵
アリス館

おすすめコメント

わんわんと、にゃんにゃんと、うさぎさんと…たーっち! あたかな絵で描かれた動物とタッチして遊んだ後は、親子でタッチ。ふれあいの温かさを感じる絵本です。
(平塚市の図書館にあります。中央図書館)

○「どうしてなくの？」

フラン・ピンタデーラ／作、アナ・センデル／絵、星野由美／訳
偕成社

おすすめコメント

男の子のマリオが小さい声で「ぼくたち どうしてなくの？」とたずねると、お母さんは「悲しいとき、怒ったとき、心が痛いとき…涙は心の痛みの塗り薬になってくれる」とやさしく語りかけます。見開きいっぱいの絵も穏やかで美しいです。
(平塚市の図書館にあります。北、西、南図書館)

10月のおすすめ本

○「ようかいオジジあらわれる」

よなはかんだ／文
山口みねやす／画
くもん出版

おすすめコメント

そうそう、時々ようかいに変身するお父さんっているよね、と懐かしかったり、まさに今ウチに出るけど、うちはお父さんじゃなくてお母さんだよ...?!と親子と一緒に絵本の時間を楽しめそうです。

(平塚市の図書館にあります。中央、西、南図書館、あおぞら号)

○「きょうは そらに まるいつき」

荒井良二／著
偕成社

おすすめコメント

様々な人や動物が、様々なところから一つのまるい月を見ている。輝く月を見て、感じ方や思うことは人も動物も様々なはず。どんなことがあった日も自分は自分のままで思い感じていいんだな、と思わせてくれます。

(平塚市の図書館にあります。中央、北、南図書館、あおぞら号)

11月のおすすめ本

○「大食いフィニギンのホネのスープ」

カンブリア・エバンズ／作
川島誠／訳
BL 出版

おすすめコメント

そうそう、時々ようかいに変身するお父さんっているよね、と懐かしかったり、まさに今ウチに出るけど、うちはお父さんじゃなくてお母さんだよ...?!と親子と一緒に絵本の時間を楽しめそうです。

(平塚市の図書館にあります。中央、西、南図書館、あおぞら号)

○「きょうは そらに まるいつき」

荒井良二／著
偕成社

おすすめコメント

様々な人や動物が、様々なところから一つのまるい月を見ている。輝く月を見て、感じ方や思うことは人も動物も様々なはず。どんなことがあった日も自分は自分のままで思い感じていいんだな、と思わせてくれます。

(平塚市の図書館にあります。中央、北、南図書館、あおぞら号)

12月のおすすめ本

○「クスノキの番人」

東野圭吾／著
実業之日本社

おすすめコメント

その木に祈れば、願いが叶うと言われているクスノキ。その番人を任された青年と、祈念に訪れる人々の物語。人生や歴史をみてきたクスノキに、癒しや生命力を感じます。余談ですが、「くすのき」は平塚市民の木でもあります。

(平塚市の図書館にあります。中央、北、西、南図書館)

○「植物少女」

朝比奈秋／著
朝日新聞出版

おすすめコメント

出産時の脳出血で植物状態になった母と娘の物語です。「生きるとは何か」を問う、現役の医師だからこそ描けた真摯な母娘の物語。

(平塚市の図書館にあります。中央、南図書館)

1月のおすすめ本

○「はじめての」

島本理生、辻村深月、宮部みゆき、森絵都／著
水鈴社

おすすめコメント

はじめての物語が4話入っています。

初めてに取り組む姿はヒリヒリしてそれぞれが懸命に生きている姿を見せてくれます。

(平塚市の図書館にあります。中央、北、西、南図書館)

○「ぼくはぼく」

スーザン・ヴェルデ／文
ピーター・レイノルズ／絵
島津やよい／訳
新評論

おすすめコメント

みんなとおなじじゃないことは、とっても素敵なこと!ありのままのじぶんを好きになれる本。

大人向けの”じぶんをほめたたえるエクササイズ“ガイド付き!

(平塚市の図書館にあります。中央図書館)

2月のおすすめ本

○「小公女」

F.E.バーネット／著、川端康成／訳、野上彰／訳
角川書店

おすすめコメント

裕福な家庭で何不自由なく育ったセーラ。父の死をきっかけに境遇が一変し、過酷ないじめに遭うも持ち前の想像力と品格で力強く生きる姿が胸を打ちます。

(平塚市の図書館にあります。西図書館)

○「星の王子さま」

アントワーヌ・ド・サン・テグジュペリ／著、内藤濯／訳
岩波書店

おすすめコメント

『たいせつなことは目にみえない』あなたはそのままでいいんだよ、っていうことを教えてくれる本。子どもの頃に戻って読んでみませんか？

(平塚市の図書館にあります。中央、北、西、南図書館)